

最も有名なハワイ語動詞 *aloha* の用法について

塩谷亨

The usage of the most famous Hawaiian verb *aloha*

Toru SHIONOYA

要旨: The Hawaiian verb *aloha* has a wide range of usages. In this paper, I attempted to advance a new analysis that can accommodate many different usages of the verb *aloha*. According to the new analysis, a core meaning of the verb *aloha* is "feeling for somebody/something", from which other meanings of the verb *aloha* can be derived.

キーワード: ハワイ語 文法 語法

1. イントロダクション

1.1 最も有名で最も難しい単語の一つ *aloha*

観光地として世界的に知られているハワイの言葉として最も有名な単語が *aloha* であるという点については、データを示さずとも議論の余地はないであろう。¹有名なハワイの挨拶の言葉であり、ハワイアンのもっともポピュラーな名曲「アロハ・オエ」(Aloha 'oe)の曲名にも含まれている単語である。*aloha*の代表的な意味が「愛」であるということを知っている人も多いかもしれない。しかしながら、例えば、ハワイ語の物語や歌を日本語に訳そうとすると、*aloha*という単語の訳語の選定作業はなかなか一筋縄ではいかない。いつもいつも「愛」で片付けることはできない。このことは、辞書での *aloha* という単語の定義の多様さが顕著に表している。例えば、現在最も詳しいハワイ語辞書である Pukui and Elbert (1986)による *aloha* の定義は以下のとおりである。

aloha. nvt. nvs.² *Aloha*, love, affection, compassion, mercy, sympathy, pity, kindness, sentiment, grace, charity; greeting, salutation, regards; sweetheart, lover, loved one; beloved, loving, kind, compassionate, charitable, lovable; to love, be fond of; to show kindness, mercy, pity, charity, affection; to venerate; to remember with affection; to greet,

¹ 本稿の執筆に際して、諸々の貴重なコメントをいただいた室蘭認知科学研究会の方々、また査読者の方々にこの場を借りてお礼の言葉を述べたい。又、本稿での分析は文部省科学研究費補助金奨励研究(A)「ハワイ語の記述的研究-文献データに基づくハワイ語辞書の編纂-」(課題番号 09710358)にて行った研究成果によるものである。

² 略号 nvt, nvs.はこの語が他動詞、状態動詞、名詞として用いられるということを示している。

hail. Greetings! Hello! Good-by! Farewell! Alas! (以下、用例とイディオムは省略)

ハワイ語は、一つの語が名詞、動詞などいろいろな品詞として機能する言語であるということ、同音異義語がかなり多い言語であるということらを考慮しても、この語義の多様さは突出している。本稿ではこの多様な用法を持つ単語 aloha について扱う。

1.2 本稿の目的

本稿では、aloha という単語が動詞として用いられている場合に、それがどのような環境で用いられているのか、そして、それぞれの環境でどのような意味で用いられているかを分析した。それにより、(1)辞書に見られるような多様な語義を統括するような意味的な一般化を提示すること、また、(2)どのような場合にどのような具体的な意味で用いられるかについての規則或いは傾向の一般化を提示することの二つを目的とした。

1.3 分析に用いたデータ

作成した例文データベースのソースは 10 の文献と 3 の新聞である。総例分数は 19985 である。できるだけ多様なジャンルからの文献を含めるようにした。文献の内訳は以下のとおりである。

出典	親データベース中の全例文数	ジャンル
Pukui and Green (1995)	4816	民話
Beckwith (1911-1912)	2291	民話
Nakuina (1902)	836	民話
Nakoa (1979)	299	小説
Beckwith (1932)	3158	伝統・風習についての解説
Malo (1987)	2774	伝統・風習についての解説
Na haiao (1841)	682	キリスト教関連
Hawaiian Laws (1994)	2151	法律
Mookini (1985)	1113	動物の紹介
Kuokoa	682	新聞(記事、読み物)
Ka Lama Hawaii	79	新聞(記事、読み物)
Ka Hoku o Hawaii	235	新聞(記事、読み物)
Kumu kamalii	869	新聞(キリスト教関係)
総計	19985	-

上記の親データベースから aloha という単語が含まれている例を抽出し、それを今回の分析データとした。抽出した例文は全部で 257 例であるが、その中で、動詞の用法(述語用法、関係節)として選び出した例文は 99 例であった。そのうち 3 例については未分析であるので、96 例が今回の例文の総数である。

これらのデータ原典におけるハワイ語表記には 2 種類ある。実際に広く通用していた表記法と、現在教育機関等で教えられている表記法の 2 種類である。両者の最も大きな違いは前者が長母音の全てと声門閉鎖音のほとんどを表記しないのに対し、後者では長母音は横棒(例 ā)正門閉鎖音は'で表記される点であるが、その他にも若干の違いがある。本稿でデータを提示する際にはそれぞれの原典の表記法に従った。

2. aloha の用例と分析

2.1 述語としての用法

2.1.1 述語としての用法の分類

述語として使われている例について、主語名詞句一つのみを従える場合と目的語名詞句を従える場合、受身形になっている場合、受身形以外で一つの名詞句も従えていない場合との 4 つに分け、それぞれについて、aloha がどのような意味で用いられているのが分析する。

尚、aloha を述語とする文が関係節として名詞を修飾している場合については 2.2 節で述べる。

2.1.2 主語名詞句一つのみを従える場合

主語名詞句一つのみを従えているケースは 19 例あった。それらについて、どんな種類の名詞句が主語に来ているのかにより分類した。その内訳は以下の通りである。

主語名詞句に人称代名詞が来る例	
主語が人間	18
主語が人間以外	1

主語名詞句に人間が来ている 18 例のうち、人称代名詞が来ているのが 11 例と最も多く、普通名詞が 5 例、固有名詞(人名)が 1 例である。

人称代名詞が来ている 11 例の内訳は以下の通りである。これより、aloha の用法を整理するため、異なる用法にそれぞれ V1、V2...のように通し番号を付しながら進めていく。³

用法	主語名詞句に人称代名詞が来る例	
V1	「可愛そうだ、哀れだ」(哀れみの感情を表す例)	1
V2	挨拶のフレーズとしてイディオム的に使われる例	10

用法 V1 は「可愛そうだ、哀れだ」という哀れみの感情を表す場合であり、主語名詞句は哀れみの感情を引き起こす原因である。

³ V は動詞(verb)の略で、以下、異なる用法が登場する毎に 1 から始めて通し番号を付していく。

(1) Aloha ino oia.

「(怪我した女性に対して)彼女はなんと可愛そうなこと。」 Kumu Kamalii

用法 V2 は挨拶のフレーズとして用いられるケースである。「挨拶する」という行為を表すのではなく、挨拶の際に実際に交わすセリフとして用いられている場合である。今回データに含まれていた挨拶の例に用いられていた代名詞の内訳は「あなた」(二人称単数)が5例、「あなた達」(二人称複数)が3例、「私達(聞き手含む、合計2人)」(一人称双数包括形)が1例、「私達(聞き手含む、合計3人以上)」(一人称複数包括形)が1例である。

(2) Aloha oe.

{oe「あなた」(二人称単数)に対する挨拶} Beckwith 1911-2

(3) Aloha oukou.

{oukou「あなた達、合計3人以上」(二人称複数)に対する挨拶}

Kumu Kamalii

(4) Aloha kaua

{kaua「私達(聞き手含む、合計2人)」(一人称双数包括形)に対する挨拶}

Beckwith 1932

(5) Aloha kākou.

{kākou「私達(聞き手含む、合計3人以上)」(一人称複数包括形)に対する挨拶}

Pukui & Green 1995

以上、敢えて和訳を避けて単に挨拶とだけしたのは、これらの挨拶の意味をどう分析するかがまさに本稿で解決したい問題点に密接に関連するからである。イディオムの意味で用いられるが、形式上は P1 と同様に aloha という動詞と主語代名詞からなる一つの自動詞文として分析できる。実際の用法としては、場面に応じて日本語の「今日は」、「ごきげんよう」、「さようなら」等いろいろな挨拶に相当する。例(2)から(5)に関しても、その文脈にそって「今日は」、「さようなら」等とそれぞれその場面に対応する日本語の挨拶を和訳として付ける事も可能であるが、いずれにしてもハワイ語の挨拶がどんな意味を持つ文として分析できるのか、或いは、挨拶の中で用いられる動詞 aloha はどんな意味で用いられているのかを示す訳にはならない。実際に挨拶の言葉をどのように分析すべきかという議論は本稿の終わりまで持ち越したい。尚、今回のデータにはたまたま含まれていなかったが、Pukui and Elbert (1986)によると、もう一つの挨拶のフレーズとして、「あなた達(2人)」に対する挨拶として使われる Aloha 'olua. ('olua は二人称双数代名詞)がある。挨拶は聞き手がいて始めて成立するものなので、「私」(一人称単数)や「彼・彼女、彼ら・彼女ら」(三人称単数・双数・複数)が来る例が見られないのは不思議なことではない。

主語代名詞に人間が来るもののうち普通名詞が来る5例の内訳は以下のとおりである。

用法	主語名詞句に人間を表す普通名詞が来る例	
V1	「可愛そうな、哀れな」(哀れみの感情を表す例)	5

この例を一つ提示する。主語名詞句はそれぞれ、哀れみの感情を起こさせる原因である。

(6) aloha no ka poe kahiko

「昔の人々は実に気の毒なことだ」

Malo 1987

主語に人間が来るもののうち固有名詞が来る例は哀れみの感情を表す例一つである。主語名詞句は哀れみの感情を引き起こす原因である。

用法	主語名詞句に人間を表す固有名詞が来る例	
V1	「可愛そうな、哀れな」(哀れみの感情を表す例)	1

(7) Aloha ino o Abela.

「アベルは哀れなことだ(聖書のエピソード)」

Kumu Kamalii

主語名詞句に人間以外が来る 1 例の内訳は以下のとおりである。

用法	主語名詞句に人間以外が来る例	
V2	挨拶のフレーズとしてイディオム的に使われる例	1

次の例は主語名詞句に「土地」が来ている例であるが、ここでは V2 の例と同じく挨拶のフレーズとして用いられている。

(8) Aloha oukou a pau, aloha no hoi ka aina, oki kakou la nalo.

「アロハ皆さん、アロハこの土地、私たちは止めて立ち去ります

Beckwith 1911-2

直前に挨拶のフレーズ Aloha oukou (あなた達複数への挨拶の言葉) がきている事からもわかるように、これは別の土地へと去っていく別れの挨拶のスピーチの結びの部分であり、擬人法的に自分の愛する土地への挨拶をしたものと考えられる。

2.1.3 目的語名詞句を従える場合

aloha が目的語名詞句をとる他動詞として述語を成す場合は全部で 46 例あった。文脈から了解されている場合等、主語や目的語は必ずしも現れないこともある。そのような場合でも目的語が文脈から推定できる場合は他動詞の例としてここに含めた。

他動詞用法について、まず、主語名詞句の種類により大きく下記のように分類した。主語名詞句が現れていない場合については文脈から主語を補って考えた。

目的語名詞句を従える例	
主語名詞句が神、人間、動物	44
主語名詞句が上記以外	2

このように、主語名詞句に神、人間、動物のいずれかが来る例がほとんどである。2.1.2 節で示したことを考慮しても aloha は何らかの感情を表す動詞と考えられるので、それが他動詞として用いられる場合、主語に来るものは感情を持ちえる存在でなければならないはずである。神、人間、動物はいずれも感情を持ち得る存在であることから、ほとんどの場合これらのいずれかが主語に来るとするのは自然なことである。

次に、主語名詞句に神、人間、動物にいずれかが来る 44 例について aloha がどのような意味を持つのか観察した結果、以下の 4 つの用法に分類することにした。

主語名詞句に神、人間、動物が来る例		
用法	aloha の意味	
V3	愛する、慕う、いとしく思う	37
V4	哀れむ、かわいそうに思う	2
V5	挨拶する	4
V6	悲しむ	1

用法 V3 はいわゆる愛情に関するものである。

- (9) E aloha aku oe i ka Haku i kou Akua me kou naau a pau,...
「あなたの腸全体で主をあなたの神を愛しなさい⁴」

Na haiiao

また、用法 V3 の変種として、目的語名詞句が現れない形がある。

- (10) A o kekahi kupapau, i kanu ia a nalo, ina i aloha kana kane paha ka wahine paha, e kii malu no...
「ある遺体について言えば、埋葬されてしまって、その夫や妻がいとしく思ったら、ひそかに墓を暴いて取っていった...」

Malo 1987

例(10)では、目的語名詞句は現れていないが、文脈から「その遺体をいとしく思うなら」

⁴ 後でまた述べるが伝統的にハワイでは腸に感情が存在するとされている。

のような意味であることがわかり、目的語はここでは省かれているのだと考えられる。

用法 V4 では、「哀れむ」、「かわいそうに思う」という意味を表す。用法 V1 の「可哀想だ、哀れだ」と似ているが、用法 V1 は「哀れみ」を感じさせる原因が主語とする自動詞の用法であるのに対して、用法 V4 は「哀れみ」を感じる主体が主語となり、「哀れみ」を感じさせる原因は目的語として現れる他動詞の用法である点で異なる。

(11) E, aloha maoli ka hoi au i kela keiki e paa mai la i ke kaula.

「おお、私は本当に全くあのロープにつながれた子が哀れでしょうがない」

Ka hoku o Hawaii

用法 V5 の「挨拶をする」はここでは「挨拶をする」という行為を表す用法であり、用法 V2 のように実際の挨拶で交わすフレーズを成す用法とは別のものである。

(12) A pau keia mau olelo ana, hopu iho la no i ka ipu ana a me ka hoe, aloha aku la i ke kaikaina a o ka hele aku la no ia...

「これらの言葉が終わると、彼のひょうたんとカヌーの櫂をつかみ、弟に挨拶し、そして立ち去った」

Nakuina 1902

又、用法 V5 の変種として、目的語名詞句が現れない形もある。

(13) Ia manawa, lalau mai la o Haunaka i na lima o Aiwohikupua, a aloha mai la oia,

「その時、ハウナカはアイヴォヒクプアの手を握った、そして彼(ハウナカ)は歓迎した」

Beckwith 1911-2

例(13)では、「歓迎した」の目的語が現れていないが、「アイヴォヒクプアを」という目的語が文脈から推定できる。

用法 V6 は「(ある出来事を)悲しむ」という意味であり 1 例だけである。

(14) Aloha iho la na makaainana i ka make ana o ko lakou kupuna, a alii nui hoi.

「平民たちは彼らの祖である大酋長の死を悲しんだ」

Beckwith 1932

意味としては用法 V4 の「哀れむ」に含めてもよいかもしれない。しかしながら、用法 V4 が「だれかを哀れに思う」のに対し、用法 V6 は「ある出来事を悲しむ」であり、目的語の種類も異なることから、今回は別扱いとした。今後分析データ範囲を拡げた後に、再度吟味したい。

主語名詞句に神でも人間でも動物でもないものが来るケースが 2 例だけある。二つとも「腸」が主語になる例である。ハワイでは伝統的には感情を感じる臓器は心臓ではな

く、腸であるとされる。「腸」は単に人間の一部分、臓器であり人間そのものとは言えないが、そのようなハワイの伝統的な考え方から、「腸」はいろいろな感情を持つ主体となり得る存在といえる。以下の例では「哀れに思う」の意味で用いられているので、用法 V4 の変種であると考えることが出来る。

(15) Ke aloha aku nei kuu naau ia oukou no ko oukou make ana.

「私の腸があなた達が死ぬことに際してあなたたちを哀れに思う」 Na haiao

また、さらにこの用法の変種として、「哀れさ」という気持ちを感じさせる原因を表す名詞句が現れない形もある。それが「腸」が主語になる 2 例中のもう一つの例である。

(16) Aloha ino kuu naau

「(貧しい人を見て) 私の腸が哀れに思う」.

Kumu Kamalii

ここでは、aloha が従えている名詞句は、主語名詞句 kuu naau 「私の腸」だけである。しかしながら、文脈から「貧し人を哀れに思う」のだということがわかる。

2.1.4 受身形になっている場合

他動詞という点では 2.1.3 と共通であるが、aloha に受身の指標 'ia がついた形で述語を成す例は 7 例ある。受身になっている例の内訳は以下のとおりである。

受身になっている例		
用法	aloha の意味	
V3	愛する (P2-1-1 に対応)	6
V5	挨拶する (P2-1-3 に対応)	1

このように「愛する」の意味で受身形が用いられている例が多かった。その例には、前置詞 e 「～によって」に導かれる名詞句が現れる場合もあるが、文脈から明白な場合は現れない場合が多い。「愛する」の意味で受身形が使われる場合のうち、「～によって」が現れる場合が 1 例、現れない場合が 6 例であった。それぞれの例を一つずつ挙げる。

(17) Ua 'ōlelo 'ia, he ali'i wahine ko Ka'ū i aloha nui 'ia e kona po'e kānaka.

「カウーには民によってとても慕われた女性酋長がいたと言われている」

Pukui and Green 1995

(18) ..., a he nui aku na hana maikai e ae a Kuanuuanu i hana ai, nolaila, ua aloha nui ia oia.

「そしてクーアヌアヌは他にもたくさん善行をしたので、彼はとても愛された」

Nakuina 1902

例(17)では e kona po'e kānaka 「その民によって」のように前置詞 e 「～によって」を表す名詞句が現れている。例(18)も同じく「酋長が民からとても慕われた」ということを表しているが、前置詞 e 「～によって」が導く名詞句はない。これも文脈から了解されているため省略されたと考えられる。

「挨拶する」の意味で受身形が用いられている 1 例は次のとおりである。

(19) I aloha ia iho nei olua e Heakekoa.

「あなた達 2 人はヘアケコアによって挨拶された」 Ka hoku o Hawaii

上記の和訳では直訳を提示したが、意味としては「ヘアケコアがあなた達 2 人によるしくとのことだった」のようなものである。

2.1.5 受身形以外で一つの名詞句も従えてない場合

前節の受身形を除いて、aloha が一つの名詞句も伴わず、aloha とそれ自体に付加される修飾語だけで文を成す場合が 7 例ある。その内訳は以下のとおりである。

一つの名詞句も従えていない例		
用法	aloha の意味	
V2	挨拶のフレーズ	3
V1	哀れた	2
V4	哀れに思う	1
V5	挨拶する	1

挨拶のフレーズとして用いられている 3 例のうち 2 例は別れの挨拶、1 例は著者の前書きの結び部分の挨拶であった。一つづつ例を示す。

(20) Aloha wale --- e. 「さらば」 Beckwith1911-2

(21) Aloha no! (日本語では適当な訳語なし、手紙なら「敬具」等に相当する挨拶) Beckwith 1911-2

これらの例は主語名詞句が現れていない形と考えて、用法 V2 の変種とみなすことにする。上記の 2 例で aloha の後ろに wale、no などの語が来ているがいずれも強調辞である。

「哀れた」という意味で使われる場合の 2 例はいずれも ino 「ひどい」が修飾語として付加されている。これはほとんどイディオム的に用いられる表現である。

(22) Aloha ino! 「なんと哀れなこと」 Beckwith1932

このような例については、「哀れみ」の気持ちを引き起こす原因を表す主語名詞句が現れていない形と考えて用法 V1 の変種と考える。

「哀れに思う」という意味で用いられる 1 例は以下のとおりである。

(23) Inā e uē loa mai, e aloha aku nei paha.

「もしひどく泣いたなら、哀れに思うかもしれない」 Pukui and Green 1995

この例では、aloha の後ろに付加されている 3 語はいずれも修飾語である。ここではたまたま aloha が名詞句を伴わないで現れているが、文脈を考えると「(話者)が(泣く人)を哀れに思う」ということであり、主語も目的語も文脈から明白なので省略されていると分析することが出来る。そうなれば、これは用法 V4 の変種と考えられる。

「挨拶する」という行為を表す 1 例は以下の通りである。

(24) Pii aku la laua a i ka hiki ana imua o Keawenuiaumi, a aloha aku aloha mai,...

「彼らはケアヴェヌイアウミの所に登って行き、挨拶を交わした」

Nakuina 1902

ここでは aloha が二つペアで登場し、それぞれ修飾語の aku と mai が付加されている。これらは後で詳しく述べる方向詞であり、aku は「話者から離れる方向に」、mai は「話者に近づく方向に」というような方向性を示すものである。ここでは aloha aku aloha mai で挨拶が行き来する、すなわち両者間で挨拶が交わされることを表している。たまたま aloha が名詞句を一つも従えずに登場しているが、文脈から「彼らとケアヴェヌイアウミがお互いに挨拶を交わした」という意味であり、主語と目的語が省略されているが、用法 V5 の変種と考えられる。

2.2 関係節としての用法

aloha を述語とする文が関係節となり名詞を修飾している例が 16 例ある。関係節も述語用法の変種であるので、関係節としての用法についても、動詞 aloha の用法は 2.1 節で扱った述語としての用法のどれかに相当する。そこで、16 例の内訳を、対応する 2.1 節の述語諸用法に従って分類する。

関係節として用いられている例		
用法	aloha の意味	
V3	愛する	10
V3	愛する(受身形)	5
V4	哀れむ	1

それぞれの例を一つづつ提示する。

- (25) ..., eia ko kuahine o Kahalaomapuana, ka mea au e aloha nui nei,..
「これが私の妹カハラオマブアナ、私がとても愛している者だ」 Beckwith 1911-2
- (26) ...na makamaka i aloha ia...
「愛されていた友人たち」 Malo 1978
- (27) ...'a'ohe kanaka nāna e aloha mai, ua pau loa i ka ho'i!
「同情してくれる人はだれもいなかった、一巻の終わりだった」
Pukui and Green 1995

例(25)は「愛する」、例(26)はその受身形、例(27)は「哀れに思う」の意味でもちいられている aloha がそれぞれ関係節を成して名詞を修飾している例である。

2.3 方向詞との共起

方向詞とは動詞や名詞の後ろに付加される不変化詞で、方向性のニュアンスを添えるものである。方向詞には以下の4つがある。

方向詞	基本的な意味
aku	話者から離れていく方向へ向かって
mai	話者に近づく方向へ向かって
a'e	上方へ向かって
iho	下方へ向かって

これらの方向詞は微妙なニュアンスを添える場合にも用いられる他、ある一つの動作を捉える視点を表すこともある。例えば、動詞 kū'ai は「(ある物を)売買する」という意味であるが、これに方向詞 mai、aku を付加することによってそれぞれ kū'ai mai「買う」、kū'ai aku「売る」のようにある一つの動作が二つの異なる視点から表される。この節では、aloha がこれらの方向詞と共起している場合と共起していない場合との比較、そして、共起している場合については方向詞の種類による比較を行い、それぞれの場合の間に意味的な差が見られるかどうか観察する。

aloha が動詞として用いられている場合(述語として、関係節として)で方向詞と共起している例は 22 例あった。その方向詞別、aloha の用法別に分類した内訳は以下の通りである。

方向詞と共起する例				
方向詞	方向詞別の例数	用法	意味	意味別の例数
aku	8	V3	愛する	5
		V5	挨拶する	2
		V4	哀れに思う	1
mai	11	V3	愛する	6

		V5	挨拶する	3
		V4	哀れに思う	2
a'e	1	V3	愛する	1
iho	2	V4	哀れに思う	2

例の数が多くないのでそれほど明確なことは示せないが、この少ないデータを見ていくつかの傾向性を示して見たい。

方向詞が使われるのは全て他動詞用法（V3 から V5）であり、自動詞的用法がないことがわかる。方向詞は方向性を示すものであり、主語と目的語という 2 者間の作用を示す他動詞と最も適合するものであるということは、想像できる結果である。

また、「愛する」、「挨拶する」のように双方向的な作用を表すものについては、前述の kū'ai mai「買う」、kū'ai aku「売る」の例が示すように、二者間の双方向的なやりとりを示すのにも使われる mai と aku がよく使われるということ。一方で、自分自身というニュアンスを添えるのによく用いられる方向詞 iho⁵は「哀れに思う」のように相互作用というより、自分の気持ちだけの一方通行的な作用を表すものに使われるということが言えるかもしれない。

いずれにしても、もっと数多くの例を集めてから再吟味する必要がある。

3. まとめと考察

諸用法に見られる様々な aloha の意味を総合すると、「愛する気持ち」という言葉でもかなりの部分はカバーできると思われるが、「愛」或いは「愛情」としてしまうと恋愛感情や家族愛ととられてしまう可能性があるため、それは避けることとする。「愛」や「愛情」だけでなく「哀れみ」や「同情」も含まれることを考えると、日本語の単語一語で表現するなら「情け」が最も近いように思われるが、「情け」は抽象的過ぎる言葉である。そこで、今回は、aloha の根源的な意味を「思いやる気持ち」のように一般化し、いろいろな用法の説明を試みる。

自動詞的用法と他動詞的用法の意味は以下のように整理できる。

aloha の本質的な意味	「思いやる気持ち」
自動詞 aloha の意味	X（主語）に対して思いやる気持ちが湧きあがる
他動詞 aloha の意味	思いやる気持ちが X（主語）から Y（目的語）へ向けられる

「思いやる」対象が家族や恋人であれば、用法 V3 の「愛情」となる。また、「思いやる」対象が気の毒な人であれば用法 V1、V4 の「同情、哀れみ」となる。同様に、「思いやる」対象が悲しい出来事であれば用法 V6 の「悲しい」となる。又、「思いやる」気持ちを X

⁵ Elbert and Pukui 1979:91

から Y に実際に「送る」という行為そのものに着目すれば、V5 の「挨拶する」となる。
ここで、結論を先延ばしにしてきた用法 V2 についてはどのように説明されるのか示す。用法 V2 は主語のみを取る自動詞的用法と考えられるので、自動詞 aloha の意味が適用される。V2 の諸用法の意味は以下のように図式される。

挨拶のフレーズ	Aloha X.の意味	X に対して思いやる気持ちが湧きあがるように
---------	-------------	------------------------

このように、ここでは自動詞 aloha の意味が祈願文的に用いられていると考える。実際に例(2)と(5)の挨拶をこれに当てはめると以下ようになる。

(2)Aloha 'oe.	あなたに対して思いやる気持ちが湧きあがるように
(5)Aloha kākou.	あなたも私も含めて皆に対して思いやる気持ちが湧きあがるように

祈願文の場合には動詞の前に e という指標が来る形があるが、特に口語などでは何も付かない形が良く使われるので、このような分析自体には問題ないと思われる。

最後に、ハワイ語では「愛する」という単語と「挨拶する」という単語の形式上の区別はほとんどないと言える。英語の love にも「愛」に加えて「挨拶」という意味がある。英語では「挨拶する」という意味では greet のような代表的な言葉が他にあるのに対し、ハワイ語では「挨拶する」を表す最も代表的な単語と「愛する」を表す最も代表的な言葉が一致している。「愛」イコール「挨拶」というハワイの言語文化は、よそ者に温かく接することを良しとするハワイのお国柄にいかにもふさわしいものと言えよう。

参考文献

- Beckwith, Martha W. 1911-1912. *The Hawaiian romance of Laieikawai*. U.S. Bureau of American Ethnology, Thirty-third annual report, 285-677. Washington D.C.
- Beckwith, Martha W. ed. 1932. *Kepelino's traditions of Hawaii*. Bernice P. Bishop Museum Bulletin 95.
- Hawaiian laws 1841-1842*. 1994. reprinted by Ted Adameck.
- Malo, Davida. 1987. *Ka moolelo Hawaii*. Honolulu: The folk press.
- Mookini, Esther T. 1985. *O na holoholona wawae eha o Ka Lama Hawaii*. Honolulu: Bamboo Ridge Press.
- Na haiao*. 1841. Honolulu: Mission Press.
- Nakoa, Sarah. 1979. *Lei Momi o Ewa*. Honolulu: 'Ahahui 'Ōlelo Hawai'i.
- Nakuina, Moses K. 1902. *Moolelo Hawaii o Pakaa a me Ku-a-Pakaa*. Privately published.
- Pukui, Mary K. and Samuel H. Elbert. 1986. *Hawaiian dictionary*. 2nd edition. Honolulu: University of Hawaii Press.
- Pukui, Mary K. and Laura C.S. Green. 1995. *Folktales of Hawaii*. Honolulu: Bishop Museum Press.

Hawaiian newspapers

Ka Hoku o Hawaii

Ka Lama Hawaii

Ka Nupepa Kuokoa.

Ke Kumu Kamalii.

執筆者紹介

所属：室蘭工業大学共通講座・言語科学講座

Email：shionoya@mmm.muroran-it.ac.jp